

## 上宮寺通信

第十九号

## 人生列車

今年の冬は記録的な暖冬で、名古屋では2月になってようやく初雪が観測されるほどでした。

あまり寒くない冬でしたが、昔から「暑さ寒さも彼岸まで」といわれたお彼岸の季節がやってきます。お中日である春分の日には昼の長さと夜の長さがほぼ等しくなり、これを境にだんだんと昼の時間が長くなってきます。また、仏教行事としての「お彼岸」は、この時期の真西の方向に沈む太陽を見て極楽浄土を思い浮かべたことから来ています。

それでは、なぜ仏様のおられる極楽浄土は西にあるとされる

のか。それは経典(『阿弥陀経』など)に書いてあるからなのですが、極楽浄土こそ私たちが本当に帰るべき場所であることを表しているからなのです。つまり太陽が沈む方角である西と人生の終着点を重ね合わせたのです。

しかし、私たちはその終着点をなるべく見ないようにして「今」だけを見て生活しています。

そんな人生を送る私たちを作家の吉川英治は列車の乗客に譬えてこう記しています。

「発車駅の東京駅も知らず、横浜駅も覚えがない、丹那トンネルを過ぎた頃に薄目をあき、静岡あたりで突然『乗っていること』に気づく、そして名古屋の

五分間停車ぐらいからガラス越しの社会へきよるきよるし初め『この列車はどこへ行くのか』と慌て出す。もしそういうお客さんが一人居たとしたら、辺りの乗客は吹き出すに決まっている。無知を憐れむにちがいない。ところが人生列車は、全部の乗客がそれなのだ」。

人生の終着点がはっきりとしない私たち。いよいよ人生が半ばを過ぎるようになると、どこに行くのだろうか慌てふためくのです。

私たちの人生の目的とは何か。お金を稼ぐこと? 名声や権力を手に入れること? これらはどうだけ手に入れようとも命を終えるときには持っていくことはできません。私たちはついつ

いそれらを手に入れることが人生の目的だと錯覚します。しかし、それは私の人生を飾る装飾品であっても目的ではありません。それよりも本当に安心して帰っていける場所を見つけることこそが大事なのです。そうならば「どこに行くのだ?」とあたふたすることなく、悠々と人生を旅する乗客となるのです。

自分はどんな人生列車の乗客なのか、お彼岸の時期に考えてはいかがでしょうか。



◆行事案内

上宮寺の行事

3月8日(日)

春季彼岸会・永代経法要

※新型コロナウイルスの感染拡大の懸念により、ご参詣をお願い申し上げます。なお、法要については住職はじめ寺族にてお勤めさせていただきます。

3月23日(月)

上宮寺講

時間：午後二時～



その他の行事

4月1日(水)～4日(土)

京都・東本願寺

「春の法要」

4月16日(木)

名古屋東照宮 舞楽祭

時間：午後五時～八時頃

場所：東照宮広前(中区丸の内)

※雨天の場合は室内

拝観自由

徳川家康公のご命日の前夜祭

として舞楽が奉納されます。

【参加者募集】

信州善光寺・北向観音巡り

6月17日(水)～18日(木)

参加費 3万7千円

宿泊は湯田中温泉

全行程食事つき。

定員 20名

詳しくは上宮寺まで。

◆話題あれこれ

○3月8日の「春のお彼岸・永代経法要」は新型コロナウイルスの感染拡大が懸念されるため、上記のような形でお勤めさせていただきま。参詣を楽しみにされていた方には本当に申し訳ありません。

○4月1日～4日、東本願寺では「春の法要」が勤められます。京都に行かれる際は、ぜひ東本願寺にもご参詣ください。

○新型コロナウイルスが今後どうなっていくのかとても心配です。十分な休養で体力をつけ、手洗いをしっかりして感染しないようお互いに気をつけましょう。

【雑感】

3月は卒園式や卒業式が各地で行われます。我が家でも長男が大学を、長女が中学を卒業し、それぞれ新しい道へ歩み出します。中学の卒業式ではPTA会長として祝辞を述べる予定でしたが、新型コロナウイルスの影響でカット。話が長くなると嫌がられるので短く端的にと頭を絞って考えていたのに、残念！。在校生なし、来賓なし、卒業生とその保護者のみの寂しい卒業式になりそうですが、卒業生はすぐに公立高校の受験が控えているので仕方ありません。早くこの新型コロナウイルスも収束してくれればいいのですが…。(住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金一丁目十九番十五号

☎052・871・0547